



『たまごからうま(ベンガルの民話)』
 酒井 公子 / 再話 織茂 恭子 / 絵
 (偕成社)

インドのベンガル地方に伝わるお話。市場へ馬を買いに行った男が手に入れたのは、なんと「馬のたまご」!? つぎつぎに出てくる動物たちとのやりとりで、ついにめでたくなつてしまいます。おほかたで大胆な物語です。

『みにくいむすめ』
 レイフ・マーティン / 作
 デイヴィッド・シャノン / 絵
 常盤 新平 / 訳 (岩崎書店)

北米インディアンに伝わる、優しい娘が最後に幸せになるシンデレラ物語。美しく雄大な自然を感じられます。

『ほーら、これでいい! (リベリア民話)』

ウォン=ディペイ / 再話 マーガレット・H・リップパート / 再話
 ジュリー・パシュキス / 絵 さくま ゆみこ / 訳 (アートン)



「むかしむかし、あたまはひとりぼっちでした」ではじまる、西アフリカに伝わるふしぎなお話。あたまは、うでやあしと出会うと、だんだん人のかたちになっていきます。カラフルな絵も楽しくて、ほーら、これでいい!

『ふしぎなしろねずみ(韓国のむかしばなし)』
 チャン チョルムン / 文 ユン ミス / 絵
 かみや にじ / 訳 (岩波書店)

おじいさんの鼻の穴から出てきた白いねずみ。追いかけてみると、とてもふしぎなできごとが…。



『アラババと40人のとうぞく
 (『アラビアンナイト』より)』
 小沢 正 / 文 赤坂 三好 / 絵
 (小学館)

とうぞくの宝をぬすんだけれど、見つかってしまったアラババ。どうなるの!? 「ひらけ、ごま!」の呪文をとこなえていっしょにぼうけんしよう!

『おんどりとえんどうまめ(ロシアの昔話より)』
 宮川 やすえ / 文 岩本 康之亮 / 絵
 (ひさかたチャイルド)

のどにえんどうまめをつまらせたおんどりを助けなきゃ! とってもハラハラする楽しいお話。



『とらよりこわいほしがき
 (かんこく・ちようせんのみんわ)』
 小沢 清子 / 文 太田 大八 / 絵
 (太平出版社)

おそろしい干し柿から逃げようと、人食いどらがかみ死に走る! スピード感あふれるゆかいなお話。



『シナの五にんきようだい』
 クレール・H・ピショップ / ぶん クルト・ヴィーゼ / え かわもと さぶろう / やく
 (瑞雲舎)

それぞれがふしぎな力を持っている五人きようだい。あるとき事件にまきこまれて、1ばんめの兄さんが死刑を言いわたされてしまいます。そこでそっくりなきようだいたちは…。スカッと痛快な中国のお話。



えべつし
 じょうほう
 としょかん

ワンズ アボン ア タイム
 ~ Once upon a time ~

がいこくのむかしばなし



へいせい
 28やんど

おすすめ
 えほんリスト
 25冊

がテーマのえほん



2016・第58回こどもの読書週間
 4/23~5/12
 四角い本に ちがうこころ



『てぶくろ(ウクライナ民話)』
 エウゲーニー・M・ラチョフ / え
 うちだ りさこ / やく
 (福音館書店)

雪ふる森の中、おじいさんが落としていった片方のてぶくろ。見つけたねずみがよるこんで中に入りこむと、ほかの動物たちもつぎつぎと入ってきて…。わたしも入りたい! ってなっちゃうかも。



『まほうのふで』
 西本 鶏介 / 文 太田 大八 / 絵
 (チャイルド本社)

かいた絵が本物になる魔法の筆を手に入れたマリヤン。まずしい人を助けるために絵をかいていたなら、よくばりな金持ちに金貨をかけとおどされて…。マリヤンのちえとぼうけんが楽しい中国のお話。



『スーホの白い馬(モンゴル民話)』
 大塚 勇三 / 再話
 赤羽 末吉 / 画
 (福音館書店)

歌が上手な少年スーホ。白い赤ちゃん馬をひろったスーホは、大切に育てて競馬大会に出場しますが…。スーホと白馬の悲しいけれど強い絆。長く読み続けられている、モンゴルの楽器“馬頭琴”にまつわるお話です。



『なんでも見える鏡(ジプシーの昔話)』
 フイツォフスキ / 再話 内田 莉莎子 / 訳 スズキ コージ / 画 (福音館書店)

気のいいジプシーの若者が、旅の途中で助けたさかなワシアリの力をかりて、みごと王女さまのハートを射とめるお話。スズキコージさんの力強く個性的な絵がおもしろい!



『1つぶのおこめ さんすうのむかしばなし』
 デミ/作 さくま ゆみこ/訳
 (光村教育図書)

いじわるでけちな王さまから、みんなのお米をとりもどそう！
 今日(きょう)は1つぶお米をもらって、明日(あした)は2つぶ、明後日(あさって)は4つ
 ぶ…30日もらい続けると、おどろきの数(かず)に！ かしこい女(おんな)の
 子(こ)が村(むら)をすくった、インド(さんすう)の算数(むかしばなし)の昔話(むかしばなし)。



『おおくいひょうたん(西アフリカの昔話)』
 吉沢 葉子/再話 斎藤 隆夫/絵
 (福音館書店)

草むらで見つけた小さなまあるいひょうたん、「ひよん ころ
 ひよん」とついてきてかわいらしいこと。それがお話(はなし)のまん中
 あたりからたいへんなことに！ きれいなグリーンが印象的(いんしょうてき)。
 おと音(ね)のひびきも楽しい1冊(すん)です。



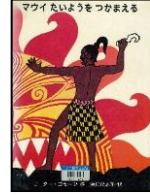
『三びきのやぎのからがらどん
 (ノルウェーの昔話)』
 マーシャ・ブラウン/え せた ていじ/やく
 (福音館書店)

橋(はし)を渡(わた)ろうとするものを食べてしまう化け物(ばもの)トロール。三びき
 のヤギ(やぎ)たちが橋(はし)を渡(わた)るために考(かんが)えた作戦(さくせん)とは？ 50年
 以上(いじょう)も愛(あい)され続(つづ)けている絵本(えほん)です。迫(おぼ)力(りき)ある絵(え)にみんなで
 ドキドキしててください。



『おおきなかぶ(ロシアの昔話)』
 A.トルストイ/再話 内田 莉莎子/訳
 佐藤 忠良/画 (福音館書店)

「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声(こゑ)でおなじみのロングセラ
 ー絵本(えほん)。おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみで大
 きな大きなカブ(かぶ)をひっぱり(ひ)ます。読(よ)んでいるこっちまで応援(おうえん)
 したくなります。



『マウイたいようをつかまえる』
 ピーター・ゴセージ/作
 浜島 代志子/訳
 (MOE出版)

ニュージーランドのマオリ族(ぞく)のお話(はなし)。
 太陽(たいよう)があつという間(ま)に沈(しず)んでしまつ
 て長い長い夜(よる)ばかりが続(つづ)くので、人
 びとは困(こま)りはてていました。そこで神(かみ)
 さまの子(こ)マウイは、太陽(たいよう)をつかまえて
 ゆっくり動(うご)かそうとかんがえます。

『インソップのライオンとねずみ』
 インソップ/原作
 バーナデット・ワッツ/再話・絵
 ささき たづこ/訳 (講談社)

強(つよ)くて大きなライオンと、弱(よわ)くてちつぽ
 けなねずみ。ねずみに「わたしのたす
 けがいるときには、いつでもよんでくだ
 さい」と言(い)われたライオンは、そんなこ
 とができるものかと笑(わら)いとばします
 が、思(おも)いがけないこと(こと)がおこります。

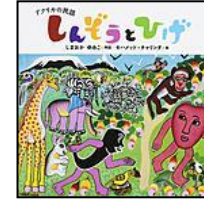
『きたかぜとたいよう(インソップ童話)』
 インソップ/作 バーナデット/絵
 もき かずこ/訳 (西村書店)

自分(じぶん)の方が強(つよ)いと言(い)ってゆずらない
 きたかぜ たいよう。とおりがかった男(おとこ)が着
 ているマント(まんと)をひきはがせた方(ほう)が強
 い(つよ)いということ(こと)で勝負(しょうぶ)をしますが…？



『パンのかけらとちいさなあくま(トニア民話)』
 内田 莉莎子/再話 堀内 誠一/画 (福音館書店)

いたずらのつもりで貧乏(びんぼう)なきこりからパンのかけらを盗(ぬす)んだ小さなあくま。ところが
 それを知(し)った大(おお)きなあくまたちはかんかんに怒(おこ)って、「きこりのためになにか役に立
 つことをするまで帰(かえ)ってくるな」と言(い)いわたします。きこりにゆるしてもらおうと、小さなあくまが大
 つやく！ 読(よ)みごたえたっぷりの痛快(つうかい)な物語(ものがたり)です。



『しんぞうとひげ(アフリカの民話)』
 しまおか ゆみこ/再話 モハメッド・チャリダ/絵 (ポプラ社)

とにかくのつけからびっくりの、予想(よそ)もつかない奇想(きそう)天外(てんがい)ぶり。だって、しんぞう
 に足(あし)がはえて歩(ある)いているんですよ！ アフリカ(ひと)の人(ひと)びとの自由(じゆう)すぎる想像(そうぞう)力(りき)
 にノックアウト(しやうげき)される衝撃(さつ)の1冊(すん)。



『きつねのホイティ』
 シビル・ウェッタシンハ/さく
 まつおか きょうこ/やく
 (福音館書店)

おなかをすかせたきつねのホイティ。人間(にんげん)のふりを
 しておかみさんたちからごちそうをもらったけれ
 ど、実(じつ)はおかみさんたちはすべてお見通(みとお)し。それな
 のに調子(ちょうし)に乗(の)ったものだから、今度(こんど)はみごとに仕
 返し(かえ)されてしまつて…。ゆかいなスリランカ(はなし)のお話(はなし)。



『十二の月たち(スラブ民話)』
 ポジエナ・ニエムツォヴァー/再話
 出久根 育/文・絵
 (偕成社)

いじわるなママ母(はは)と姉(あね)から、雪山(ゆきやま)に行ってスマレを
 つんでこいと言われるマルシュカ。寒(さ)さにふるえる
 マルシュカに力(ちから)をかしてくれたのは、十二(じゅうに)か月の
 精(せい)たちでした。『森(もり)は生(い)きている』のタイトルでも知
 られているお話(はなし)です。

『金のガチョウ』
 グリム/原作

バーナデット・ワッツ/文・絵
 福本 友美子/訳 (BL出版)

家族(かぞく)のみんなからばかにされているけ
 れど、とてもやさしい末っ子(すえこ)むすこ。小人(こびと)
 のおじいさんからお礼(れい)にもらった金(きん)のガ
 チョウ(ちやう)をつれて歩(ある)くと、どんどんさわぎが
 大き(おお)くなって…。楽しいグリム童話(どうわ)。

『そらをとぶふね(ロシア民話)』
 西郷 竹彦/再話 滝平 二郎/絵
 (岩崎書店)

お姫(ひめ)さまと結婚(けっこん)するために、空(そら)飛(と)ぶ船(ふね)
 をつくってお城(しろ)へ行(い)ったイワン。みすぼ
 らしい身(み)なりをしたイワンは王(おう)さまに追
 い返(かえ)されそう(そう)になりますが、旅(たび)の途(と)中(ちゆう)
 で仲間(なかま)になったおじいさん(おじいさん)たちがふし
 ぎ(ちから)な力(ちから)で助(たす)けてくれます。